

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度 第1回相模原市経営評価委員会			
事務局 (担当課)		経営監理課 電話042-769-9240(直通)			
開催日時		令和2年11月30日(月)午後6時~午後7時			
開催場所		相模原市役所 本庁舎本館2階 第1特別会議室			
出席者	委員	7人(別紙のとおり)			
	市	4人(下仲副市長、財政部長、財政課長、政策課長)			
	事務局	7人(経営監理課長他 6名)			
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数	なし
公開不可・一部不可の場合は、その理由					
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 「(仮称)相模原市行財政構造改革プラン」について 3 その他				

審 議 経 過

1 開会

定足数及び傍聴者の確認を行い、経営評価委員会を開会した。

冒頭、下仲副市長より「(仮称)相模原市行財政構造改革プラン」(以下「改革プラン」という。)の策定が延期となった経緯などの説明を含め挨拶を行った上で、議事に沿って審議を行った。

主な内容は次のとおり。

2 議事(以下、質疑応答・意見交換 は委員の発言、 は市・事務局の発言)

【資料1に関して】

昨年度、経営評価委員会より答申をいただいた「(仮称)さがみはら行財政改革推進指針」について、同一趣旨、同一方向性である改革プランに考え方を反映させることで、両計画を一つの計画として策定を行っていく旨及び今後の改革プラン策定に当たっての進め方について、事務局より説明し、質疑応答・意見交換を行った。

長期財政収支における財源不足額について、単年度ごとに目標を設定するものではないという理解でよいか。

そのとおりである。令和9年度に収支差をゼロにすることを目標としている。

事業縮小のイメージが強いように感じる。投資的な事業については、民間活力の活用を行い、民間と共に市の発展を行うといった部分も明確に打ち出した方がよいのではないか。

民間活力の活用は、今後も重要な視点であると考えているが、具体的な活用方法等について、慎重に議論していきたい。

厳しい財政状況の中で、検討期間である第1期に3年も費やしてよいか。

公共施設のあり方や大規模事業の見直し、各種計画の取扱い等について、検討だけではなく、第1期の中においても先行着手が可能なものは、進めて行きたいと考えている。

新型コロナウイルス感染症にかかる来年以降の状況は、誰もが見通せない中で、今後の状況の変化に柔軟に対応できるのか疑問である。また、取り組めるものは、第1期の中においても進めて行くということだが、改革プラン策定に当たっては、その部分がしっかりと市民に伝わるような文章にしていくことが重要である。

伝え方を工夫しながら策定していく。

新型コロナウイルス感染症にかかる今後の状況が見通せない中で、複数案の作成などは考えているか。

財政状況が厳しい中で、道筋を示す必要があることから、1期・2期に分けた形で策定していきたい。ただし、今後の社会情勢の変化などによっては、その状況を反映していくなどの対応はあるものと考えている。

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の時点で、財政的に厳しい状況であったことは確かであるのだから、義務的経費まで切り込んだ場合など、段階的な複数のシミュレーションを行う必要があると考える。

複数のシミュレーションは出来ていないが、基礎的自治体として最低限の行政サービスを行っていかねばならないことから、地方交付税上の基準財政需要額を目的別の最低限度額と読みかえ、これを基準財政モデルとして作成を進めたい。

基準財政需要額は、人口等の状況から算定されており、事業費等と直結しないので、実際の事業ベースのシミュレーションを行った方がよいのではないかと考える。

デジタル化の視点は反映していくべきではないか。

デジタル化による業務効率化等は重要な視点であり、しっかりと反映させていく。

【資料2 に関して】

改革プランの策定に関するオープンハウス型説明会の実施について、事務局より説明し、質疑応答・意見交換を行った。

市民意見を直接聞くことはいい試みである。市では公民連携プラットフォームを運営していたと記憶しているが、プラットフォームで民間企業にアイデアを聞くことも重要ではないか。

検討していきたい。

他都市では、そういった取組が進んでいるところもある。民間企業等を巻き込みながら進めたほうがいいのではないか。他都市の実績として、行政では出てこない意見・議論ができるとの意見もあったようだ。

プラットフォームもそうだが、新型コロナウイルス関連施策立案事業についても取り組んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響などは、民間活力を活用した調査を実施しているところである。いただいた意見も参考にしながら進めていきたい。

市民意見の聴取は、オープンハウス以外でも行っているのか。

昨年度、市民アンケートを実施した。

オープンハウスは、本委員会後も開催される予定となっているが、次回の委員会で、その結果は示していただけるか。

お示しする。

オープンハウスの目的は、いわゆるサイレントマジョリティーの意見を聴取することとのことだが、このような形でもすべてをすくい上げるのは困難であり、オープンハウスの結果をもって、サイレントマジョリティーの意見と傾いてほしくはない。相模原駅前のスタジアム構想に関する署名などは、ニュース等から盛況であったと承知しているが、逆に本市の財政状況の厳しさが伝わっていないとも捉えることができる。例えば、そのような場に赴き、財政状況の厳しさを伝えた上で、事業の実施について向き合って話し合うことが市民意識の向上や底上げに繋がるのではないか。

本市として、財政状況をどのように伝え、声を届けることが出来るか、苦慮しているところである。いただいた意見を踏まえ、オープンハウスでの意見の取扱いや、伝え方の工夫等について、検討していきたい。

【全体を通して】

行政が作成する文書等について、特に改行の位置が分かりにくく、このような部分が分かりづらさに繋がっていると思う。特に市民の目に触れるものについては、そういった視点もしっかりと考えて作成することが、伝わりやすさに繋がると考える。

ひとつひとつに注意を払って取り組んでいきたい。

オープンハウスも含め、どの層に対してどのような手法で意見を求めていくのか、全体像を次回以降に示していただきたい。全体像を見ることで、意見を求める層やそれに対する手法という点での議論も可能となる。

オープンハウスでの意見、アンケートでの意見、パブリックコメントでの意見聴取など、目的と手法の全体像が分かる資料をお示しさせていただく。

3 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

以 上

相模原市経営評価委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	山口 由紀子	相模女子大学 副学長・ 人間社会学部 教授	委員長	出席
2	川崎 一泰	中央大学 総合政策学部 教授		出席
3	出雲 明子	東海大学 政治経済学部 准教授		出席
4	霧生 卓	公認会計士		欠席
5	坂本 堯則	相模原市自治会連合会 会長	副委員長	欠席
6	染谷 耕平	相模原商工会議所 青年部副会長		出席
7	三好 上次	公募委員		欠席
8	神田 広幸	公募委員		出席
9	青木 庸江	公募委員		出席
10	澤野 光晴	公募委員		出席